

# 2024年度 ジモト化計画推進委員会

委員長 菊地 博彰

## 1. 運営方針

熊谷市は近年大きな災害に見舞われておりませんが、荒川、利根川という一級河川に挟まれているため洪水の危険性もあります。2019年の台風19号による増水で荒川が一時、氾濫危険水位に達し熊谷市は市内の小中学校など48カ所に避難所を開設し、荒川流域に避難指示を出しました。しかし、2022年度の市民意識調査の「災害時に自分や家族が避難すべき避難場所を知っていますか」の問いに対しては、2020年度から関心度は年々低下をしているデータがあります。つまり、熊谷市民の危機意識が薄れていることを表しています。

災害は規模が大きいほど、公的機関の救助や支援が被災者全員に行きわたるまでに時間がかかります。現状、熊谷市民の危機意識は低く、災害時の備えが万全ではないため、予期せぬ災害によって大切な家族、仲間と過ごせる日々を奪われるかもしれません。最悪の事態を避けるためには、日頃から地域と市民とのつながりを作り、地域に対して関心を持っておくことで、災害時お互いに協力し、助け合う関係を築き上げることができます。熊谷市には共助が円滑に行える仕組みづくりが必要となってきます。

そこで本年度、ジモト化計画推進委員会では「シン・クマガヤ〜新たな防災のカタチ〜」をテーマに運動を展開してまいります。災害時の熊谷青年会議所の役割を明確化し、災害時に迅速に対応できる仕組みを構築いたします。熊谷青年会議所では2022年度から継続事業として「防災・減災」をテーマに地域の人々の熊谷に対する愛着を高めること、熊谷青年会議所の認知度を高めることを目的にジモト化プロジェクトを実施しております。第3回「熊谷ジモト化プロジェクト」にて熊谷を生活圏とする人々に熊谷の安全・安心と熊谷青年会議所の防災・減災への取り組みを周知する事で、熊谷が安全で安心なまちだと認識していただき、ジモト化を推進してまいります。

地域の安全・安心に寄与できる組織と仕組みが熊谷にはあるという事が大切な家族、仲間と過ごせる愛着のあるまちへとなり、熊谷への関心を高めるきっかけとなります。熊谷を生活圏とする方々が熊谷青年会議所のメンバーが居てくれて良かったと思っていただくことで、我々の認知度の向上にもつながります。そして安全・安心な熊谷で大切な家族、仲間と過ごせるまちへとなり、熊谷市民が誰にでも誇れるまち熊谷になると確信します。

## 2. 事業計画

- (1) 災害時の熊谷青年会議所メンバーの役割を理解していただく例会の実施
- (2) 熊谷を生活圏とする人々に安全・安心を周知する第3回「熊谷ジモト化プロジェクト」の実施
- (3) 一年間の運動の成果と課題を報告し引き継ぐ例会の実施